

# 町医者だより

平成30年12月号

リサーチ・ゲート

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器内科

数年前にリサーチゲート (Reserch Gate) というサイトに登録しませんか、という英文メールを頻繁に貰うようになりました。送り主が同門の順天堂大学呼吸器内科の現教授と同姓同名 (ローマ字) でした。数回は知らんぷりしていましたが希望されているのならばと思い登録しました。登録はしたもののしばらく無視していましたが過去に出版した論文のPDFファイルを登録してほしいという全く知らない研究者からの依頼があって、このサイトが世界中の研究者に自分の論文を読んでもらうためのツールであり、他の研究者の論文を無料で読めるサイトであることを認識し数編を登録いたしました。理系特に医学系は電子ジャーナル化が進んでいて、私も定期購入 (購読ではありません) しているニューイングランド医学雑誌も数年前から印刷物はやめて電子ジャーナルのみを利用しています。今回はこのリサーチゲートに登録した論文の話です。

## 一番読まれている論文

このリサーチゲートは定期的に自分が登録した論文が何名の人に読まれているかレポートがくるのですが、毎週読者が増えているのが2005年にRespirologyという雑誌に発表した「Visible male nipple shadows in chest radiographs」というタイトルの論文です。この雑誌は日本呼吸器学会も関与していた英文誌なのですが現在はインパクトファクターが上がっていて昔ほど簡単に論文がアクセプトされません。女性は特にそうなのですが男性の乳首の陰影が胸部レントゲンに写ってしまうことがあって、結節影として精査に回されることがあります。当時大学病院に勤務していて週2回バイトに行っていた2箇所の大企業で読影していた健診レントゲンのうち6ヶ月程度の期間に有所見者をピックアップして解析しました。胸部レントゲンで乳頭かどうか鑑別するのに金属板の小片だったりクリップだったり乳首にテープなどで貼って胸部レントゲン写真を撮り直すのですが、15名ほど同じ検査をおこなうと体格が異なっても単純レントゲン写真で見える乳頭の位置がほとんど同じだということに気がきました。それが後ろ側の肋骨で数えて第9番目と10番目の肋骨の間で、わき腹の肋骨の外から6cm以内に写ること、直径で1.5mmを超えないことが分かりました。その位置にある陰影も乳頭陰影である可能性が高く (念のため大きさに変化が少なくとも2年前の健診レントゲンから変化が無いことを条件にしましたが) 乳頭陰影 (推定例) としてカウントしていくことにしました。そうしてみると男性1150名中40名の3.5%の方で乳頭 (確実例+推定例) が写ることが分かりました、という論文です。この論文は印象に残っている論文の一つなのですが、それは調べてみようと思いたって該当事例を拾い上げるのに6ヶ月、論文作成に2週間で投稿したところ編集者が気に入ってくださったのか手直しなしでアクセプトされ最短時間で論文になったからです。おまけにその年の年末にあるその年に出版された論文のまとめのようなものが出るのですが、その中でも取り上げていただきました。それまで続けていた基礎研究は、出口の見えない実験を繰り返さなくてはならないのにこの種の臨床研究は意外とあっさり論文になるんだと思いました (それは後に大きな勘違いだと分かったのですが)。後日談ですがリサーチゲートの勧誘していただいた先生は順天堂大学の教授ではなくどうも千葉大の整形外科の教授だったようです。何故誘ってこられたか現在も不明です。